

特集：新型ロードスター

2

## 新型ロードスターのデザイン Design of All-New Roadster

中牟田 泰<sup>\*1</sup>  
Yasushi Nakamuta

### 要 約

世界中の幅広い世代の人々に16年という長い間愛されてきた初代及び2代目ロードスター / MX-5の特徴を改めて認識し、人馬一体のコンセプトを目標に最新の技術を駆使して開発されたのが新型ロードスター / MX-5である。デザイン開発においても初代及び2代目のユニークなデザインイメージを継承しながらもより進化したファンでモダンなスタイリングを実現することを基本コンセプトとした。またライトウエイトオープンスポーツカーらしい心地よいタイトなインテリア空間と機能性及び安全性の向上を追及し幅広いカスタマーの共感を得られる次世代のライトウエイトスポーツカーの新しい価値を目指した。

### Summary

It is roadster/MX-5 of the original and the second generation that has been loved by people of various generations all over the world generation for a long time of 16 years. This time New Roadster/MX-5 has been developed by recognizing the features of a word "five" again and making full use of hot technology aiming at a concept of rider and horse as one. The basic concept of the time New Roadster/MX-5 is to achieve a modern styling with the fan that has further evolved while taking over unique design images from the original and the second generation in design development activities. Moreover, we had aimed at a new value of a lightweight sports car of the next generation resonated with a wide range of customers by pursuing improvements of a tight comfortable interior space, and the functionality and safety as might have been expected with a light weight open-top sports car.

### 1. はじめに

人馬一体のコンセプトをデザインで表現するためには、まず初代 / 2代目の持つ本質的な価値を改めて認識することから着手しなければならなかった。最新の技術を使っても人と車が心をかよわせることができるような愛着のわくデザインであること。また、すぐに飽きてしまうような安易な新奇性を求めず長く付き合えるシンプルでクオリティの高いデザインがロードスター / MX-5には必要である。3代目ロードスターとして何を継承し、進化させるところはどこかを見定めることがデザイナーにとって重要なポイントであった。

### 2. デザインの狙い

#### 2.1 ロードスター / MX-5らしさの継承

ロードスター / MX-5は16年という長い年月にわたり、世界中の幅広い世代の人々に愛されてきた。これは商品そのものの持つ動力性能の評価やアフォーダブルな価格だけではなく、エクステリア&インテリアデザインに表現されているライトウエイトオープンスポーツカーとしてのシンプルな機能美や、ファンで親しみやすいスタイリングイメージなど、カスタマーが共感できるロードスター / MX-5ならではのユニークなポイントがあったからだと考えられる。

特にエクステリアデザインにおいてショルダーラインが低く、薄く流れるようなサイドシルエット / プロポーシヨ

\*1 デザイン戦略スタジオ  
Design Strategic Studio

は競合他車とは違ったロードスター/MX-5ならではのユニークなスタイリングポイントである (Fig.1)

歴史的な名車が長く愛されてきたスタイリングのユニーク性を継承しながら新しいデザインを成功させているのと同じように新型ロードスター/MX-5もこのユニークなポイントをデザインに継承していく必要があると考えた。

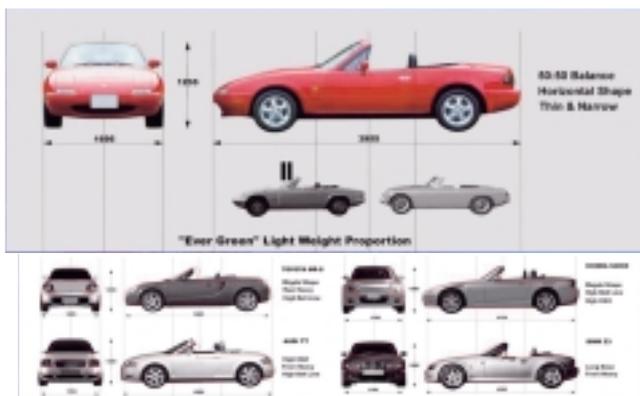


Fig.1 Side Silhouette

### 2.2 更なるデザインの進化

デザインイメージを継承するだけでは進化したスタイリングは生まれてはこない。ロードスター/MX-5と分かるユニーク性を持ちライトウエイトスポーツカーの機能性をシンプルでモダンなサーフェイスで表現すること、また新しい素材感やグラフィックなど最先端のスタイリングトレンドを取り入れた斬新なデザインを目標とした。

## 3. エクステリアデザイン

### 3.1 デザインコンセプト

エクステリアデザインのコンセプトはロードスター/MX-5のユニーク性を継承し一目でロードスターと分かるデザインDNAを感じさせ、シンプルなスタイリングでライトウエイトスポーツカーの機能を表現すること、そして親しみやすくファンでモダンなスタイリングを目指した。キャラクターラインよりもサーフェイスの動きや表情によってスポーツカーならではのアスレティックなかたまり感を表現することに注力し、光と影のリフレクションを効果的に取り入れたダイナミックなボデーフォルムを追求した (Fig.2)



Fig.2 Exterior Theme Sketch

### 3.2 デザインテーマ

#### (1) プランビュー

基本となるボデーはプランビューから見てサイドインパクト等の安全性を確保するため人が座るシートエリアを最大幅とし、コンパクトなライトウエイトスポーツカーを表現するためフロント、リヤを絞り込んだオーバルシェイプとしている。これは初代、2代目のコークボトルシェイプとは全く違うデザインアプローチである (Fig.3)



Fig.3 Plan View

#### (2) フロントビュー

そのオーバルシェイプのボデーの四隅にフェンダアーチを強調させるデザインモチーフを取り入れ、シンプルなかたまりにアスレティックな表情を加えることによりスポーツカーらしいワイドトレッド感を表現した。四隅いっぱいまでタイヤを張り出したようなフェンダのデザイン処理はマツダならではのデザインDNAでもある。

フロントビューはロードスターのユニークデザインである楕円をグラフィックモチーフとし、よりモダンで親しみやすいロードスターらしいフロントグリル及びヘッドランプデザインとした、またラウンドしたボンネットパーティングラインとそれにバランスした大型のバンパフェイスを採用することによりクリーンで斬新なスポーツカーらしさを強調することができた (Fig.4)



Fig.4 Front View

### (3) サイドビュー

サイドビューは低く流れるようなショルダーラインを実現することによりロードスターらしさを表現し、ウエッジのきいたサイドボーンのハイライトによりクリーンなボデーサーフェイスに前進感、スピード感を表現した。またソフトなボデーサーフェイスの丸みとエッジを利かせた硬質なグラフィック処理によりモダンでエモーショナルなサイドビューとした (Fig.5)。



Fig.5 Side View

### (4) リヤビュー

リヤビューも初代・2代目のロードスターらしさを継承しながら、よりモダン化したスタイリングに進化させた。特にリヤクォーターにかかるフェンダ形状はスタイリッシュでモダンなイメージを強調させシンプルでクオリティの高いデザインを表現した。リヤコンビランプはフロント同様ロードスターのユニークデザインである楕円のモチーフを基本に新しい表面処理や素材感を用いながら伝統と新しさを融合させたデザインとした (Fig.6)。



Fig.6 Rear View

## 4. インテリアデザイン

新型ロードスター / MX-5のインテリアデザインは、オープンカーならではの心地よい開放感とライトウエイトスポーツカーのもつタイト感の融合を基本コンセプトとし、

あらゆる状況においても運転する喜びをより大きなものにするために走行中にもスムーズかつ的確に操作できるようにスイッチ類はより機能を優先したレイアウトとし、シンプルで機能的なデザインとした。またオーナーをワクワクさせる趣味性を兼ね備えたファンでモダンなインテリアデザインを目指した (Fig.7)。

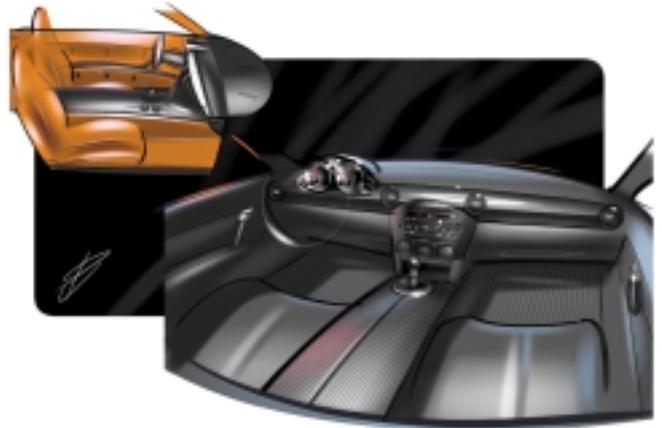


Fig.7 Interior Theme Sketch

### 4.1 インストルメントパネル

マツダデザインのDNAであるT型のインストルメントパネルを基本に、ロードスターらしいラウンドタイプのベンチレーションを配置した水平基調のブラックパネルやバックボーンフレームを強調するセンターコンソール形状など水平と垂直で構成した明快な空間構成によりライトウエイトスポーツカーとしての軽快感と剛性感を表現した。

またインストルメントパネル正面のブラック華燭パネルは木目や金属調など様々な表面処理を施すことができるアクセサリパーツとし幅広いカスタマーの趣味性をサポートできるものとした (Fig.8)。



Fig.8 Instrument Panel

### 4.2 メータ&ステアリング

スポーツカーにおいて重要なパーツとしてメータとステアリングが挙げられる。新型ロードスターとしてより機能的で進化したデザインを表現するため大型のスピードメータとタコメータ、3つの小型メータにシルバーリングを配し、更にメータレンズには反射低減コートを施したフラッ

トタイプを採用することにより視認性に優れたシンプルでクオリティの高い機能的なデザインとした。

またステアリングホイールは小型のセンターパッドと、メタル調のアクセントを利かせた3本スポークを組み合わせた斬新でスポーティなデザインとした。センターパッドは新開発のドーナツ型エアバックを採用しブランドシンボルオーナメントをホーンとして機能させるライトウエイトスポーツカーらしいユニークな演出とした (Fig.9)。



Fig.9 Meter & Steering

#### 4.3 ドアトリム

ドアトリムもライトウエイトスポーツカーらしい機能的でシンプルなデザインを基本としながらも、テクスチャや素材感を変えることでコンテンポラリーなイメージを演出した。ソーイングステッチの入ったトリムインサートやペットボトル等を入れられるマルチホルダなど新型ロードスターにふさわしい高品質で機能的なユニーク性を表現した (Fig.10)。



Fig.10 Door Trim

## 5. カラー & トリムデザイン

### 5.1 ボデーカラー

新型ロードスターのボデーカラーはピュアなスポーツカーをイメージするトゥルーレッドとマーブルホワイトのソリッドカラー、そしてより洗練されたモダンスポーツカーイメージを持つギャラクシーグレイとカッパーレッドのニューカラー4色を含め8色を設定した (Fig.11)。



Fig.11 Body Color

### 5.2 トリムカラー

#### (1) サドルタンインテリア

トリムカラーはハイグレードモデルにサドルタンという新しいトリムカラーを提案した。子育てが離れた高齢層で本物志向の顧客に対しよりモダンでハイクオリティなイメージを演出するためシート等にレザーを使用したブラックとサドルタンの2トーントリムカラーを設定した (Fig.12)。



Fig.12 Saddle Tan Interior

#### (2) ブラックインテリア

またベースグレードにはよりピュアなライトウエイトスポーツカーをイメージしブラックのファブリックシートを基本にしたブラックモノトーントリムカラーを設定した。

ステアリング、メータ、インナハンドル等にメタル調塗装を使用することによりハイグレードモデルに劣らない仕上がりになっている (Fig.13)。



Fig.13 Black Interior

## 6. おわりに

新型ロードスターのデザインは開発及び生産部門の強力なサポートがなければ成しえなかった。大型のフロントフェイスや パーツ開発など改めてマツダ開発部門の能力の高さとチャレンジスピリットを感じた。デザイン開発では多くの困難な場面があり後工程に迷惑をかけることもあったが、開発及び生産部門の知恵と努力のバックアップにより狙いどおりのデザインを具現化できた。

協力していただいた方々にこの場を借りてお礼を申し上げたい。

新型のロードスターを世界中の、そして幅広い世代のお客様に見て触っていただくことにより、多くのよろこびを与えられることと確信している。

著 者



中牟田泰